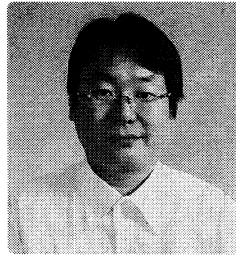


新任の先生よりメッセージ

毎度ご利用いただき、
ありがとうございます

石川 臣 紀



在校生の皆様、保護者の皆様、毎度ご利用頂きまして、誠にありがとうございます。同窓会の会員の皆様、初めまして。石川と申します。定期人事異動により古河三高より転勤して参りました。よろしくお願ひします。

紫西会報

在校生の皆様、保護者の皆様、毎度ご利用頂きまして、誠にありがとうございます。同窓会の会員の皆様、初めまして。石川と申します。定期人事異動により古河三高より転勤して参りました。よろしくお願ひします。

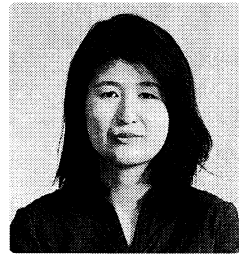
苦勞がよく分かります。六時十一分に古河駅を出て、二時間で小山駅の乗換をダッシュでこなし、駅から歩きます。昇降口の前にはテキストを広げて玄関が開くのを待っている在校生の皆様から元氣な挨拶を頂きます。

街の中では、私が体調を崩して通院した際、担当のお医者様は本校の卒業生でした。私の息子の面談に小学校に行きますと、担任の先生も本校の卒業生でした。極めては、自宅（古河市内）付近の町内巡回をされている警察官も本校の卒業生でした。あつという間に、こちらに縁ができました。私が出会いました卒業生の方々は、皆様、「下館一高はいいところですよ」と仰います。在校生の皆様には、卒業して「下館一高はよいところですよ」と話せるように、お役に立てればと思います。何かございましたら、お気軽にお声をお掛け下さい。前向きに善処させて頂きたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

戒めの言葉

（六十四回卒）

林 陽子



応接室に入ると、ぴりりとした気持ちにさせられる。壁に並んだ歴代校長の写真の中にお世話になった先生方のお顔を見つめるからだ。「お前、来たからにはしっかりやれよ」と叱咤激励されているようで、身の縮む思いである。母校に赴任して数ヶ月がたつが、入る度気持ちが引き締まる。

同じ教壇に立つ身となったからであろうか。後輩の姿に自分の高校時代を重ねる姿、色鮮やかに甦るのは、恩師の言葉である。

入学して間もなくのことだ。入学前に出された課題について、級友が先生に「いつ提出するのですか。」と尋ねた。担任は烈火のごとく怒り、「君は何のために課題をやるのか。提出するためか。」と問われた。課題は自らが学ぶためのものであって、提出が課されようが課されまいが関係のないことだ。提出の有無を聞くなど愚問である。そう悟った時、自己責任の重さ一人前に扱ってもらえることの誇りを初めて知った。いかなる困難も、乗り越えるのは他ならぬ自分である。それを意識させようという意図がそこにあったことに、今さらながら気づく。

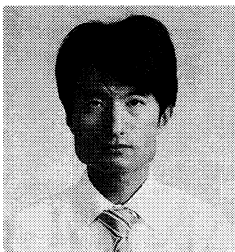
このほかにも、「大人と話をせよ。」「志は何時如何なるときも心の片隅にこめおけ。」「一つのことをやり遂げるためには何かを犠牲にしなければならぬ。」「等々、日々の授業で、ホームルームで、恩師が私たちにかけてくれた言葉は、今でもはっきりと胸に残る。数十年ぶりの母校で、そのように生徒の心に火を灯す言葉を言わねばならない立場となった今、改めてそれらの意味をかみしめている。そんな言葉の中で「際、私の心に大切な位置を占め続けているのがこれだ。」「叩けば叩くほど伸びる。」「褒め言葉ではない。戒めの言葉である。そう気づいたのは

卒業してずいぶん経ってからのことだ。逆を言えば、それは「叩かれねば伸びない。」ということである。そういう自分であることを自覚せよ、ということなのだ。だから、つらい時にはいつもこの言葉を思う。「今が叩かれどき」である。伸びようと思うのなら、今の場から逃げてはならない。成長するために必要な試練に面しているのだと、そう自分に言い聞かせるのが常である。

同じ言葉の後輩の皆さんに贈ろう。受験という大きな荒波に立ち向かい、おそろくは人生で初めての岐路に立つ皆さんに、どうか試練をばねにしてほしいと願ひつつ、「叩くほどに伸びよ、館一生。」

下館一高に赴任して

青木 久幸



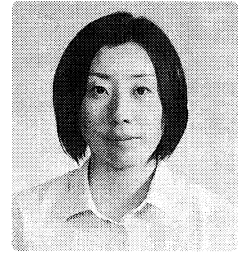
四月からこの伝統ある下館一高に赴任することとなりま

した。下館一高の近くに親戚が住んでいるため、以前からこの周りを通ったことはありましたが、赴任して初めて校内に足を踏み入れました。入ってみて、校内がとても落ち着いていることや生徒の皆さんが熱心に勉強し、行事にも良く取り組んでいるのがよく分かりました。私は、二年生を担当しているのですが、普段の授業やACの活動を通して、皆が一生懸命に学力を付けようとしている姿を目の当たりにしています。課題も切れ目なく課されて、時に苦しそうにしている様子が、見受けられますが、勉強とは苦しいもの。生徒の皆さんもその苦しさを乗り越えて、自分の将来を希望溢れるものにできるように、頑張っていくてもらいたいと思います。

また、高校時代はかけがえない仲間を得られる時でもあります。大変な勉強と一緒に励むことによってその結び付きはより強固なものになると思います。そして、その友情は、一生続くものになるかもしれません。お互いに励まし合い努力し、実りある高校生活を送ってください。

下館一高に赴任して

鈴木麻理



平成二十五年三月某日。瀬端教頭先生からの電話で、私の現在の生活が始まりました。慌ただしく新しい生活への準備をしたのが、つい昨日の事のように感じます。それほど、この一年間はあっという間に過ぎました。しかし、今までの人生で一番充実していたと断言できるほど、素晴らしい一年を送ることができました。「下館一高はどんな学校なのだろう。」期待と同時に不安が募る中四月を迎えました。しかし、すぐに不安を抱いた事が恥ずかしいと感じました。気持ちの良い挨拶で朝を迎えられること、生徒の目がキラキラ輝いていることに驚きと喜びを感じました。体育では仲間と協力し声を掛け合いながら楽しく活動する姿。保健では、教室で制服をピシッと

着こなし真剣な表情で授業を受ける姿。どの姿も生き生きしていて、私の方が多くの刺激を受けています。

未熟者ではありますが、一生に一度の大事な高校生活が、実りある充実したものとなるよう、微力ながらお力添えできればと思っています。今後とも、よろしく願いいたします。

下館一高に赴任して

渡邊理男



自分が下館一高に赴任してから、もう九ヶ月の時間が過ぎようとしています。

自分は、下館一高は二校目の勤務先です。経験も浅く、初めての転勤ということですが、自分には本校にふさわしい授業ができるのだろうか、四月はとても不安な気持ちで学校に通い始めました。しかし、教壇に立ち下館一高生の熱心

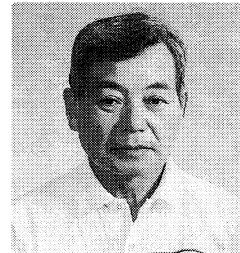
な授業態度をうけ、不安を抱いている暇など与えてもらえませんでした。今では、不安はやる気へと変わりました。そう変えてくれているのは下館一高生のおかげであると感謝をしながら指導にあたる毎日を送っています。

高校生活の中で、皆さんはとてまたくさんのやるべきことがあり大変だと思います。悩みの尽きない人も少なくはないでしょう。悩むのが面倒でも、しっかり悩んでください。結果がどのような形であれ、しっかり悩んだ末にとった行動なら必ず自分の中にプラスになるものが残るはずです。そのプラスになるものは経験としてその後に役立つはずです。適当に出した答えでは、何も残らないまま、空っぽな人間になってしまいます。三年間という短い高校生活の中で、生きること全力を尽くし成長を遂げて卒業して

くれることを望みます。



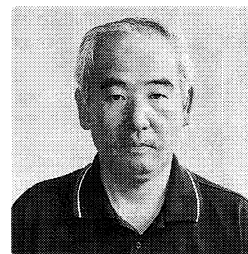
学校用務員に赴任して

飛田恒雄
(四十四回卒)

四月から用務員として働いています。私が、卒業して約半世紀(四十四回商業科卒)が経とうとしています。今年十一月十六日九十周年記念式典の準備手伝いが出来たことは何かの縁かと考え大変光栄に思っています。校長先生をはじめ諸先生方が読書に熱心なのが感じられます。本は人の心を豊かにし、いろいろな人の考え方も分ると思います。これからもより多くの本を読むとよいと思います。趣味で三十年以上民謡をやっています。今は月三回結城民謡教室で尺八伴奏を手伝っています。これからは皆さんの縁の下の方となっていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

学校用務員に赴任して

佐藤 広



学校用務員に赴任して早いもので一年が過ぎようとしています。用務員として学校の環境整備などをしています。自分の業務は、早番、遅番がありまして、早番の場合は、朝七時に玄関を開け AHSOK を解除してから事務所校長室昇降口などを開けています。遅番の時は本館特別棟の廊下、トイレの窓の施錠を中心に見回りをしています。また、校内の植木の剪定や草取り、除草剤の散布などをしています。生徒が活躍できるよう環境整備に努めて参る所存です。よろしく願います。

